

中部の発展 国際学校充実で

名古屋国際学園 増築へ財界寄付呼び掛け

中部地方で最大のインターナショナルスクールを運営する学校法人「名古屋国際学園」（名古屋守山区中志段味）が、児童・生徒の急増に伴い校舎の増築を計画している。費用の大半は自力で賄うが、不足する四億円は地元の寄付を仰ぎたい意向。中部の経済団体は「国際水準の教育機関は地元には必須のインフラ」と理解を示し、寄付集めの旗を振る。

（宮本隆彦）

廊下のおちろこちらに机が並び、少人数の児童と教師が授業をしている。幼稚園から高校までを運営する学園に通うのは三十六カ国・地域の四百九十人。三百〜三百五十人の程度を想定して造られた校舎はパンク状態だ。「とにかく場所が足りない。普通の教室だけでなく、理科や美術の特

別教室も不十分。これでは高い教育レベルを保てない」とマシュー・パール校長は危機感を募らす。

生徒の急増は製造業とIT企業の連携強化や航空産業の発展で中部の産業の国際化が進んだため。今後も世界を相手に競争力を維持し革新を起こしていくには高度な技術や

経験を持つ海外の人材が欠かせない。しかし子どもの教育環境が不十分では名古屋に来てもらえない可能性がある。

そこで中部経済連合会、名古屋商工会議所、中部経済同友会、愛知県経営者協会の四団体は十一月下旬、学園の寄付集めを支援することで足並みをそろえた。地域に必要な不可欠なインフラ」としてインターナショナルスクールの充実を地域全体で後押しする。

学園の計画では、敷地内に四階建て延べ約二千平方メートルの校舎を増築する。多目的ホール、理科実験室、音楽室、美術室などを整備し、最大で五百五十人程度に高水準の教育内容を提供できるようにする。運動場も改修し、総事業費は計十六億三千万円。二〇二〇年夏の完成を目指し、寄付金が目標の四割弱の一億五千万円に達した段階で着工を決断するという。

パール校長は「学園は誕生当初から中部の発展に必要な国際教育のニーズを満たしてきた。今回の増築は規模拡大ではなく質を充実させるため。応援してほしい」と呼び掛けている。



増築する新校舎の予定地で計画を説明するマシュー・パール校長＝名古屋守山区中志段味で



名古屋国際学園 1964年設立。68年に現在地に校舎完成。98年、規模拡大や耐震基準に対応するため特別科目棟の増築を計画した際は、当時の名古屋商工会議所副会頭で後に会頭となる磯村巖さん（故人）が寄付金募集委員会の委員長を務め、総工費5億7000万円のうち約1億5800万円を寄付と公的助成で賄った。